平成２７年１１月２日
日本原子力発電株式会社

敦賀発電所の近況について

敦賀発電所の近況について、以下のとおりお知らせします。

１．運転状況について（平成２７年１１月２日現在）

１　号　機 沸騰水型（３５万７千kW）	平成２７年４月２７日廃止*1 第３３回定期検査中*2 平成２３年１月２６日～未定
２　号　機 加圧水型（１１６万kW）	第１８回定期検査中 平成２３年８月２９日～未定*3

（　）内は定格電気出力

＊1:平成２７年３月１７日に経済産業省へ廃止に係る届出を提出した。
＊2:法律上、定期検査は廃止措置計画の認可を受けた日をもって終了とみなされる。
＊3:福島第一原子力発電所事故に対する安全対策の実施状況や新規制基準の対応状況を踏まえ、地元のご理解を得ながら計画する。

２．故障等の状況について（平成２７年１０月３日～平成２７年１１月２日）

（１）法律に基づく報告事象

なし

（２）安全協定に基づく異常時報告事象

なし

（３）保全品質情報等

なし

３．敦賀発電所３，４号機　準備工事について（平成２７年１１月２日現在）

（１）建設準備工事

現在、原子炉建屋背後斜面の緑化維持管理等の建設予定地の維持管理を継続して行っています。

（２）仮設工事関係

現在、コンクリート製造・供給プラントの設備維持管理等を継続して行っています。

４．東北地方太平洋沖地震関係

（１）敦賀発電所敷地内破砕帯の対応状況等について

①原子力規制庁との面談等について

当社は、平成２７年１０月２１日、原子力規制庁と面談を行い、有識者会合が取り纏めた敷地内破砕帯の評価書の位置付けが変わったこと等について議論を行いました。原子力規制庁からは、「本年７月８日の面談において原電に回答したものがすべてであり、それ以上のものはない。」という回答に終始し、具体的な根拠、資料や事実関係に基づく論理的な説明は一切示されませんでした。

また、最終評価書に「Ｋ断層は、Ｄ－１破砕帯等、原子炉建屋直下を通過する破砕帯のいずれかと一連の構造である可能性が否定できない」と記載された理由等を知るため、評価書の作成プロセスに関し、原子力規制庁に対し行政文書の開示請求を行いました。当社において開示された行政文書を確認しましたが、こうした記載となった理由等を見出すことはできませんでした。そのため、面談を行い、ご説明いただきたい旨を原子力規制庁に要請しましたが、同庁からは、「開示した文書がすべてであり、面談は行わない」と回答がありました。当社としては、本件の重要性に鑑み、別途、原子力規制庁に対し質問書を提出することとしています。

当社としては、本件に係る原子力規制委員会、有識者会合の審議及び評価書に係る一連の活動は原子力規制委員会の公権力の行使として行われたものであるにも拘わらず、規制当局としての行政の説明責任を全く果たしておらず、行政運営における公正の確保と透明性の向上や国民の権利利益の保護の姿勢とは全く相反するものとなっており、誠に遺憾であると考えます。

（平成２７年１０月２２日発表済み）

当社は、平成２７年１０月２１日に行った原子力規制庁との面談を踏まえ、有識者会合が取り纏めた敷地内破砕帯の最終評価書の作成プロセスに関する質問状を１０月２６日付で、原子力規制庁に提出し、回答をお願いしました。

また、本件に関して第三者の視点からのご助言をお願いするべく、行政の説明責任と行政文書の管理責任等に関する行政の相談窓口である総務省（行政評価局行政相談課）に関係資料を提出しました。

（平成２７年１０月２７日発表済み）

５．その他

（１）「原子力・エネルギー学習の場」の運用開始について

福井県エネルギー研究開発拠点化計画「小中高等学校における原子力・エネルギー教育の充実」に沿った「原子力・エネルギー学習の場」の運用を１０月より開始しました。

（２）げんでんふれあいギャラリー催物のご案内について

＜個人・グループでの芸術活動、趣味の発表の場としてご利用頂いております＞

①「潮風」萩の風句会作品展

敦賀いきいき生涯大学院俳句クラブOB会を母体とし、平成１４年４月に発足（代表：田嶋 豊年 様）。山本麓潮（ろくちょう）先生を囲んで、毎月１回句会を開催されています。７０点展示予定です。　（１１月３日～１１月８日）

②写真展『　　』　from虹色キャンパス

日々是カメラ（代表：山内 一世 様）の７名の皆様による写真展です。自由にタイトルをつけて楽しんでいただこうと、あえてタイトルを『　　』としたそうです。３０点展示予定です。　（１１月１０日～１１月１５日）

③第８回　越前大自慢写真コンテスト入賞作品展

越前町主催の写真コンテスト入賞作品展です。歴史や文化・伝統、人々の営み、そして四季折々の素晴らしい風景等、越前町の魅力を表現した作品を、２０点展示予定です。　（１１月２４日～１１月２９日）